

## 暮らして気付いた高岡の魅力

—新パンフレットプロデュース—

The Charms of Takaoka I Noticed in Life  
New Pamphlet Production

山田 小百合

Yamada Sayuri

造形建築科学コース

大学生活を高岡で送ることが決まり、高岡に来る機会が増え土日になると駅前、国道を何度も通った。その時高岡の印象は、「寂れたまち」だった。なぜなら商店街はシャッターが閉まっているところが多く、建物や道路、歩道橋なども錆びたままという状態であったからだ。

高岡での生活も3年を越え、はじめは高岡のまちを残念に思っていたにも関わらず、気付くと私は高岡のまちが大好きになっていた。高岡では瑞龍寺や高岡大仏など観光の中心となっている施設や資源にばかり注目が集まっているが、一度来ただけでは分からない住んでみて気付く魅力がたくさんあった。

そして、住んでみて見つけることができたその魅力を、高岡を訪れる人に伝えたいと思ったので、このまちの現状を調査し、隠れた魅力を伝えることのできる媒体を作成することにした。

### 高岡市のパンフレット調査・分析

人に情報を伝える手段として、どこにでも置いてあり、手軽に手に入れられるパンフレットに着目し、今回の研究では、私が高岡での生活で素敵だと思ったまちの魅力を載せた、新しいパンフレットを提案することで、人に伝えることにした。

まずは高岡市のパンフレットを収集し、それぞれのパンフレットの特徴をまとめてみた。ジャンル、形、大きさ、枚数、場所、表紙の雰囲気、中身の雰囲気、配布対象、気に入った点、気に入らなかった点の10項目を自分の感覚で分析した。その結果、私から見た高岡市のパンフレット全体の印象としては、多くがまじめな感じが嫌い、文字が多いものや長文の説明が多く、内容をしっかり読む気にはなれなかった。A4サイズが主流で、28種類中15種類のパンフレットがA4サイズであり、持ち歩くには少しサイズが大きいように思った。また、内容的にはどのパンフレットも内容が似ていて、一つの資源・観光施設がどのパンフレットにも載っていた。例えば、高岡大仏ならば、小さい紹介も含めると28種類中、16種類のパンフレットで紹介されていた。

また、重々しくまじめな印象のパンフレットからは、歴史のある建物や祭りが多いまちであることは伝わってきたが、ぱっと見て手に取りたくなくなるようなインパクトのあるものや、家に持って帰った後も記念に大切にしておきたいようなパンフレットは少ないように感じた。

次に、他のまちのパンフレットも調べてみることにした。そこで、高岡同様、歴史ある観光スポットや職人の伝統的な技術が古くから伝わっている隣の金沢市のパンフレット、トータル25種類のパンフレットを収集した。高岡市と同様の項目で、私の目線で金沢市の

パンフレットを分析した。見た目の印象として金沢市のパンフレットは、ネーミングにこだわっていてインパクトのあるネーミングのパンフレットが目立っていた。また、表紙が華やかで手に取りたくなくなるものが多かった。サイズもA4サイズは25種類中4種類のみで、大半が持ち運びを考えた小さいサイズのものだった。どのパンフレットも内容がかぶることがほとんどなかった。金沢市全体を紹介するパンフレットが1つあり、それ以外のパンフレットはそれぞれの資源・観光施設を個々に紹介するものであった。高岡市と同様に、歴史を大切にしているまちでも垢抜けた感じや華やかさのあるパンフレットを作ることが出来るのだということがわかった。

特に、パンフレットの表紙のデザインが印象に残るものが金沢市のパンフレットには多かった。そこで、次はパンフレットの表紙に着目して研究を進めることにした。パンフレットの内容ももちろん大切だが、まずは、ぱっと見て手にとってもらえるパンフレットでないと、情報の伝達が始まらないからである。また、表紙の印象という点で、パンフレットのサイズやネーミングにも着目してみることにした。

そこで、より多くの形・デザインのパンフレットを収集するため、高岡市、金沢市以外の日本全国の10の都市のパンフレットを収集した。

この10の都市のパンフレットから特徴のある表紙のパンフレットを探した。そして、一般的にどんな表紙のパンフレットが好まれるのか、客観的に意見を聞くために、簡単なアンケートを実施した。

アンケートは、全国のパンフレット13種類を刺激として回答を得た。これらのパンフレットは全国のパンフレットの中から表紙、紙質、大きさ、形、パンフレット名に特徴のあるものを私が選んだ。

アンケートを実施したところ、富山大学芸術文化学部の学生男女18名から回答を得ることができた。このアンケートの結果を分析すると以下のことが考えられる。

まず表紙の印象についてはポップな印象でもあるが、レトロで落ち着いた雰囲気もあるもの、レトロなデザインだが写真を使った大人なデザインになっておりしっかりとしたパンフレットである印象を与えられるもの、シンプルだが茶目っ気のある可愛いマークがパンフレットの中身を分かりやすく象徴しているものに票が集まった。

大きさについての質問では、全国のパンフレットによく使われている大きさより少し小さいサイズをしているものに票が集まった。メジャーな大きさのものより少し小さいだけだが、その少しの小ささが他と比べ持ち運びやすいと感じさせるのだろう。

形についての質問では大きさの質問と同様に少し小さなものに票が集まった。また、見出しの見やすさも形において重要なポイントであることが分かった。

ネーミングに関する質問では、ネーミングだけで何のパンフレッ

トなのかすぐ分かるものや遊び心のあるものに票が集まった。

## 高岡市現地調査

パンフレットの事例調査を行う一方で実際高岡のまちで情報収集を行った。高岡のまちを何度か調査していて、高岡のまちの中には女性が喜ぶような場所が多いように思った。

そこで、実際に来店されるお客さんの男女比を聞いてまわった。お店の方に、楽しめそうなおすすめのお店や高岡を体感できるようなお店はありますか。と尋ね紹介してもらった。10店を訪ねたところ、お客さんの男女比は、10店中6店が大半が女性客。1店が6:4で女性が多い。2店が5:5で半々。1件が大半が男性だとのこたえだった。特に、実際にものを買っていかれるお客さんは女性が多いようだった。やはり、高岡のまちには女性が好むスポットが多かった。

実際に高岡のまちを調査した結果を踏まえて、パンフレットのターゲットを女性にしほることにした。そこで、女性が手に取りたくなるようなパンフレットとはどのようなものなのか、富山大学芸術文化学部的女子学生6人にインタビューをした。インタビューはパンフレットを刺激として行った。アンケートに用いたパンフレット13種類と、全国のパンフレットの中から、女性が好みそうな可愛らしさのあるパンフレットを7種類選んだものを見てもらいながら質問に答えてもらった。

6人中4人が一つのパンフレットに興味を示した。手書き風のレトロなパンフレットである。理由としては、「手書きであることで、まず興味をひかれる」「文が短く読みたくなる」「手書きにすることは、高齢の方に読むことを促す効果もあるといわれる」「地図も手書きであることで、端的で分かりやすい」「高岡のパンフレットを作るのであれば、これくらいローカル感のあるデザインが親しみやすいのではないか」という意見があがった。

## 企画案

これまでの調査・研究により、高岡のパンフレットに欠けているものとはどのようなものか、どのようなパンフレットが新たに必要なのかが明らかになった。それらの結果を考慮してパンフレットの企画案として企画書を作成した。

作成にあたって、第一に新しいパンフレットには、現行のパンフレットには載っていないようなローカルスポットの掲載が必要だと考えた。高岡のパンフレットには、有名な観光スポットがいくつものパンフレットに重複して掲載されている。いくつものパンフレットに載っている場所の紹介はもういらないであろう。そして、有名

な観光スポットにいかなくても、高岡にはローカルではあるが魅力的な場所がたくさんある。

第二に現在の高岡のパンフレットは、歴史あるまち高岡を尊重しすぎてか、全体的にどこかかたい印象のパンフレットが多いが、他の地域を見てみるとまち自体が歴史・伝統を重んじているところであっても、遊び心があるパンフレットや垢抜けたパンフレットを出しているところが多くあった。高岡に必要なパンフレットの要素の1つに「かたさのないぱつと見、手に取りたくなるようなパンフレット」があると考えた。

第三に実際に高岡のまちをまちの人の話を聞きながら歩いてみて、女性が喜ぶようなスポットが多いことが分かった。そこでパンフレットのターゲットを女性に絞った。よってパンフレットのデザインも女性の目を引くようなデザインのものにすることにした。

パンフレットの方針を①パンフレットには載らないような、高岡らしいローカルスポットの紹介。②かたさのない手に取りたくなるデザイン。③女性をターゲットとしたパンフレット。とし、パンフレット全体を手書きにすることで、幅広い年齢の女性に見てみようと思わせるデザインにし、全体的にゆるいレトロな雰囲気、地元感、親近感のあるものを目指した。

高岡の新パンフレットの企画案を出し、企画書を作成した後、企画書に従い、実際に新パンフレットのサンプル制作を試みた。表紙・マップ・裏表紙の絵を学生に依頼し、さらにその絵の取り込みや加工も違った学生に依頼した。そしてサンプルが一つできたのだが、そのサンプルは私の満足のいくパンフレットには仕上がらなかった。

原因はいくつかある。まず、作業を進める学生と私のイメージするパンフレットが一致していなかったこと、できた作品を何度も改良する力・余裕が私になかったことが挙げられる。よって、満足のいくサンプルを作ることはできなかったが、サンプルを実際作成してみて、人が関われば関わるほどしっかりと企画力・動員力が必要となるということを感じた。

今回の研究では現状を調査・分析し問題点を出した上で問題点改善の企画案を制作した。この論文を通して高岡のまちに興味を持ったり、パンフレットの現状を知って私と同じ気持ちになってくれれば嬉しいと思う。